

業界挙げて環境貢献活動

み重ねと会員の総力を呼びかける。

「一つひとつは小さく、春、各地区の青年部会な試みだが、みんなが連携してCO₂排出削減協力すれば目に見える減に取り組み、CO₂削減結果が得られる」と力イナプロジェクトをスタートさせた。全産連の「環境自主行動計画」の達成に向け、参加登録企業がそれぞれ可能な範囲内で省エネ対策に



を込めるのは、愛知県を取り組む。産業廃棄物協会の青年部会長を務める加山順一郎さん。照明を消す、アイドリ

ングストップを行うなど、社団法人と各取り組みは小さい。全国産業廃棄物連合会千社が1社1社ずつの青年部会を削減すれば2千社

議会は今になる」と、日々の積



各企業可能な範囲で省エネ

青年部会の発足時、加山さんの父親が初代会長を務め、ばらばらだった廃棄物業界のまとめ役として尽力した。発足から25年、業界にも積極的な環境対応が求められる変化の時代、親子2代で会長を務める。

プロジェクトの結果は今年11月、青年部協議会の第7回全国大会で発表される。「廃棄物業界は社会基盤には欠かせない静脈産業。業界を挙げて環境貢献活動に取り組むことは社会に相応の影響を与え、業界のイメージアップにもつながる」と期待を込める。(豊橋)